

**幼児期に英語を学習させることの是非について伺いたい。**

日本人の子供のIQは、ヨーロッパの子供に比べて、指数の平均が11ほど高い、というイギリスのリン博士の発表があって、最近話題になっていますが、その反対に、日本人ほど外国語に弱いものはない、とされているのも明らかな事実です。

なぜ頭の良い日本人が語学に弱いのか。私は、その理由は日本語の音韻の貧弱さにある、と考えています。日本語ほど少ない音韻によって成り立っている言語は、広い世界にもその例示ありません。

例えば、日本語の母韻はアイウエオの5つしかありませんが、英語でも中国語でも、その他どこの国でも、たいてい10以上の母韻を持っています。日本語にない二重、三重母韻を入れたら、日本語の五、六倍から十倍以上になります。

また、子韻でも、rとl、sとthなど、非常によく似た音韻がたくさんあります。日本語のように数少ない単純な音韻だけを耳にして育った人間には、このように微妙な違いのある音韻はとても聞き分けられません。これが日本人が外国語に弱い原因だと私は考えています。

だから、音韻を聞き分ける能力が身に備わる幼時期に、出来る限り複雑な、微妙な差異のある外国語の発音を耳にさせ、それを聞き分けることの出来る能力を養う必要がある、と思うものです。

従って、英語に限らず、外国人の発音を、それも出来たらテープでなく生で聞かせることが大切です。英語がわかるとか、英語が話せるようにすることが目的ではなくて、ただ音声を聴き取る能力を養うためです。そういう能力は幼児期だけに養うことが出来るので、しかも幼児期だったら、それが容易に、全くの負担なしに養えるのです。繰り返し言いますが、英語そのものはどうでもよいのです。